

異常巻アンモナイト類の分類学的研究

～バラバラ化石がもたらした 130 年の謎～

自然・環境評価研究部 地球科学研究グループ

生野 賢司



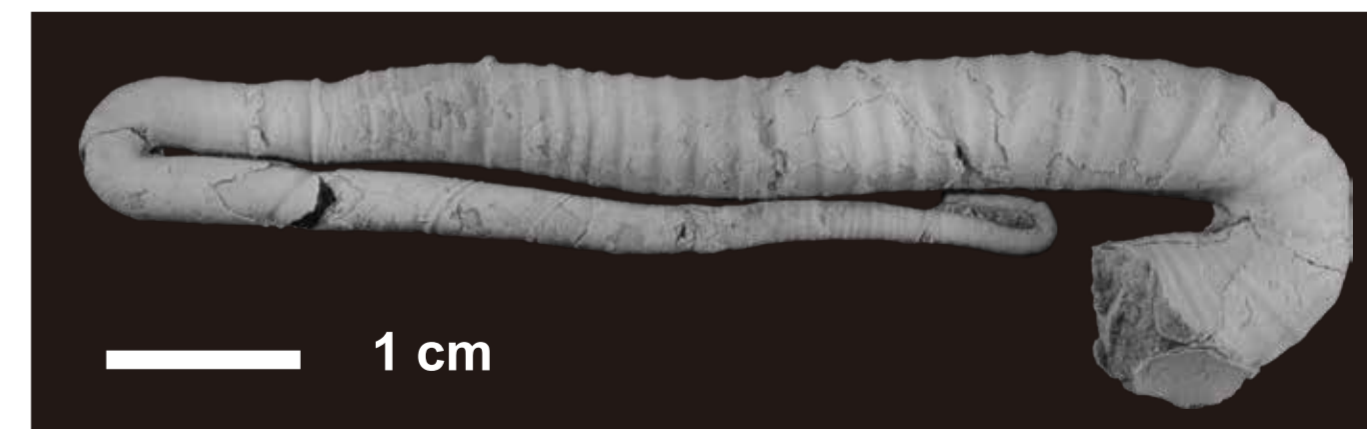
私の主な研究対象は、「異常巻アンモナイト」と呼ばれる変わった形のアンモナイトです。特に注目しているのは、長い棒が折りたたまれたような形の殻をもつ、白亜紀の「ポリプティコセラス属」(*Polyptychoceras*)です。このアンモナイトの化石はふつう破片化しており、多くの種が断片的な標本に基づいて分類されています。ところが、1890年代に多くの種が記載された後、より多くの部分が保存された化石が見つかり、分類を見直す必要性が指摘されてきました。というのも、この属には成長に伴って殻表面の装飾（凹凸）が著しく変化する種類がいるため、断片的な標本の特徴を基準にすることで「種」を分けすぎている可能性があるのです。現在私は、状態の良い多数の化石を丹念に観察し、様々な形の違いが種による違いなのか、成長段階による違いなのか、個体差なのか、時代による違いなのか、地域差なのか、を調べています。化石が豊富に見つかるアンモナイトを詳しく調べることで、絶滅した動物でも、どんな特徴に注目すれば正確に分類できるのか、過去の環境変動によって海の生物の種類がどのように増減したのか、解き明かしていきたいと考えています。



化石を集めるだけでなく、地層も調べることで、出現・消失の時期や生息環境を推定できます。



ポリプティコセラスの部分化石。見つかる化石の大半はこのような破片です。



個体の全体が保存されたポリプティコセラスの標本。殻がトロンボーンのような形をしています。